

大 学	部門目標	新しい時代に対応した教育活動と活力のある研究活動を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。	
重要施策 1-1	【教育】 新しい時代に対応した教育活動の推進と教育環境の整備 【教育活動推進】編		
	施策達成のストーリー (現状の課題・達成後の姿)	現状の課題	学部の新設・改組、グローバル教育プログラム、コラボ教育等、成蹊ブリリアント2020と称した一連の教育改革及び理工学部エリア新棟等の教育環境整備計画を着実に進めてきているが、現在も学年進行中及び整備途中であり、新しい時代に即応した教育体制への過渡期といえる。
		達成後の姿	進行中の施策における課題を検証・解消しつつ、今日の社会から求められている、あるいはその先の未来までを志向した“新しい時代の教育像”に対して、本学の教育課程、教育方法、教育環境等がより高いレベルで結実し完成形に近づいている。

評 価 指 標		6 年 後（2028年度）の 到 達 目 標 に つ い て
新学部構想を含む新たなグローバル教育施策の検討状況 →(実施後)授業満足度	・新学部設置または学部横断型教育プログラムの拡充等による新たなグローバル教育施策が導入され、学年進行に応じて計画通りに教育課程が円滑に運営されている。 ・学生の授業満足度等の評価指標を検証し、質の向上に向けてPDCAサイクルを回している。 ・授業評価アンケートまたは学生調査3年次の授業満足度が学年進行に応じて前年度より向上している。	
留学派遣者数(短・中・長期留学)	・海外に派遣する協定校数が充実するとともに、より多くの学生が参加をしたいと思える環境が整い、留学派遣者数が410名(うち、中・長期留学80名)に増加している。	
受入協定留学生数(中・長期留学)	・海外から受入れる協定校数が充実しより多くの学生が授業等を通じて外国人と交流できる環境(宿舍、授業の拡大等)が整い、受入協定留学生が26人(2017-2022年度年間平均)から42名に増加している。	
新しい時代に対応した教養カリキュラム(リベラルアーツ教育)の検討状況 →(導入後)「持続社会探究」科目履修率、教養教育授業満足度	・2026年度の新学部開設に合わせて、多様性のある新しい時代に対応するため、次期成蹊教養カリキュラムが全学的に導入され、2028年度も安定して運用できている。 ・「持続社会探究」科目履修率が100%に達している。 ・授業評価アンケートまたは学生調査1年次の教養教育授業満足度(新カリキュラム)が旧カリキュラム(2024・2025年度実績)より向上している。	
副専攻修了者数	・全ての学生が、本人の主専攻・副専攻を意識した履修登録を行えるよう、新しい時代に対応した副専攻を提供することができている。 ・副専攻修了者が2025年度実績より向上している。	
専門教育の検証と充実化の取組状況 →(導入後)専門教育授業満足度(新カリキュラム)	・次期教養カリキュラムと連動し、新しい時代に対応した学部専門科目が充実している。 ・必要に応じて研究科の専門教育の充実化や学部教育との接続等が検証されている。 ・学生募集活動において高校生にアピールできており、かつ、学生からの授業満足度においても一定の評価を得ている。 ・授業評価アンケートまたは学生調査3年次の専門教育授業満足度(新カリキュラム)が旧カリキュラム(2026・2027年度実績)より向上している。	

大 学

部門目標

新しい時代に対応した教育活動と活力のある研究活動を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。

重要施策

1-2

【教育】新しい時代に対応した教育活動の推進と教育環境の整備 【教育環境整備】編

施策達成のストーリー
(現状の課題・達成後の姿)

現状の課題

学部の新設・改組、グローバル教育プログラム、コラボ教育等、成蹊ブリリアント2020と称した一連の教育改革及び理工学部エリア新棟等の教育環境整備計画を着実に進めてきているが、現在も学年進行中及び整備途中であり、新しい時代に即応した教育体制への過渡期といえる。

達成後の姿

進行中の施策における課題を検証・解消しつつ、今日の社会から求められている、あるいはその先の未来までを志向した“新しい時代の教育像”に対して、本学の教育課程、教育方法、教育環境等がより高いレベルで結実し完成形に近づいている。

評価指標

6年後（2028年度）の到達目標について

新棟(新11号館)ラーニングコモنزの検討状況
→(導入後)新棟ラーニングコモنز利用満足度

- ・新棟ラーニングコモنزの運用において必要な施設設備や運用ルールが整備され、PDCAサイクルにより学生サービスのさらなる充実・向上に取り組んでいる。
- ・新棟ラーニングコモنزの学生利用満足度が2027年度実績より向上している。

新しい時代の教育・学修等に対応したICT設備・システム・教室設備等の整備状況
→(計画後)教室利用満足度、教室什器のリニューアル率、PC教室の一般教室化率

- ・全学生のPC必携(BYOD)化の定着とともに、カリキュラム改編から3年が経過し、新しい時代に対応したICT設備・教室設備等が安定的に運用され、さらなる充実・向上に向けて取り組んでいる。
- ・教室利用満足度が2027年度実績より向上している。
- ・新しい時代の教育・学修等に対応した教室環境を整備するため、経過年数による更新基準を設けて、アクティブラーニングを推進する教室什器を計画的に更新している。
- ・経過年数20年以上の教室什器のリニューアル率が80%に達している。

学修成果を高めるための授業改善等に向けたFD活動の参加率

- ・FD研修会および授業研究会が定期的に開催され、専任教員のFD研修会参加率が100%に達している。

新しい時代・新教育課程に応じた入試改革検討状況

- ・学内の入試体制の点検を強化し、改善に繋げることで体制を整備できている。

大 学

部門目標

新しい時代に対応した教育活動と活力のある研究活動を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。

重要施策

3

【学生支援】 学生の成長を支えるための方策や体制の拡充

施策達成のストーリー
(現状の課題・達成後の姿)

現状の課題

学生生活やキャリアの支援については、各種サービス(厚生補導)が充実している一方、学生や社会のニーズに応じた質的な向上と見直しが必要である。学修支援については、他大学に先駆けて新しい手法の開発に取り組みたい。

達成後の姿

学生が、学修や課外活動等を通して得られた資質・能力や成長度合を可視的に自覚し、就職活動等の場面で言語化して伝えられるよう、可視化された学修成果等を活用した先覚的な支援策が有効に機能している。

評価指標

6年後(2028年度)の到達目標について

学生の学修成果の可視化に向けた取組状況、オープンバッジ発行数

- ・学生の学修成果の可視化に向けた取り組みにより、多くの学生が、自ら身に付けた資質・能力を把握しており、就職活動等で活用・説明できるようになっている。
- ・オープンバッジ発行数が2025年度実績より向上している。
- ・学修成果の可視化に資する取り組みが拡充している。

ボランティア支援プログラム数・参加者満足度

- ・社会問題への気づきやボランティア参加へのきっかけを与え、学生の自主性・積極性を養成するためのボランティア支援プログラムが充実しており、参加者の高い満足度が得られている。
- ・主要なボランティア支援プログラム数が16件に達している。
- ・プログラム参加者の満足度が80%以上となっている。

学生主催イベント(学内競漕大会・学内運動競技大会・樺祭)の参加者満足度

- ・学生部が管轄し、学生上部団体(体育会本部・文化会本部・樺祭本部)が主催するイベントの充実化に向けた取り組みを積極的に支援し、参加した学生の満足度が前年度より向上している。

大学主催の学生支援(課外活動支援を含む)イベント等の総合的な点検・評価体制の整備・取組状況

- ・各部門で個別に取り組んでいる学生支援イベント等の実施状況を大学として総合的に把握・検証するための点検・評価体制が整備され、充実化に向けて取り組んでおり、授業以外でも学生の成長を促す働きかけが充実している。
- ・毎年度の点検・評価活動の成果として、複数の改善事例等を挙げることができ、学生アンケートやIRデータ等においても学生からの評価が向上している。

キャリア教育・支援の体制の充実に向けた検討・実施状況

- ・キャリア教育・支援体制が充実し、理想とする教育・支援が完成形として実現できている。
- ・社会のニーズを踏まえたキャリア教育科目群全体の改革が実現できている。
- ・キャリア支援体制がより有効に機能している。

就職イベント参加者数(延べ人数)

- ・就職イベント参加者数が延べ17,000名に達している。
- ・イベント参加者数の増加が就職実績の向上に繋がることにより、競合する他大学と比して遜色ない就職実績をあげることができている。

大学

部門目標

新しい時代に対応した教育活動と活力のある研究活動を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。

重要施策

4

【社会連携】社会・地域等との多様なネットワークの構築と強化

施策達成のストーリー (現状の課題・達成後の姿)

現状の課題

武蔵野市や各種企業・団体、他大学等、協定書を結ぶ協定先との更なる連携強化を図るとともに、オンラインを活用した取組み等により、新たな学びの提供や地域社会の活性化に繋げていく必要がある。

達成後の姿

地域に開かれた「知の拠点」として、多様な受講者にとって満足度の高い生涯学習講座を提供できている。武蔵野市をはじめ各地域社会の振興・課題解決等に資する各種社会連携事業を通して、地域に密着した社会貢献を果たしている。

評価指標

6年後（2028年度）の到達目標について

多様な受講者を対象とする生涯学習講座(公開講座・武蔵野地域五大学共同事業)の受講満足度

- ・新しい時代に対応した講座運営が行われ、受講形態に関わらず、本学の提供する講座内容について高い評価を維持できている。
- ・多様な受講者を対象とする生涯学習講座(公開講座・武蔵野地域五大学共同事業)の受講満足度が80%以上に達している。

武蔵野市等自治体・連携協定大学・各種団体等との連携事業の充実化に向けた取組状況

- ・武蔵野市等自治体、島根県立大学等連携協定大学、各種団体等との連携事業が充実し、管理運営上の相乗効果のみならず、成蹊ならではの学びや学生(一部児童・生徒を含む)の成長機会を提供できおり、本学の特色のひとつとなっている。